

2021. 1. 1 元旦礼拝

ヘブル 12 : 1-3 「イエスから目を離さない」

聖書

- 1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。
- 2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。
- 3 あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。

はじめに

2021年、明けましておめでとうございます。去年は新型コロナウイルスにより、年初に計画したことがほとんどできませんでした。そればかりか礼拝にお迎えできる人数も制限し、小さな会堂がより小さく感じた一年となりました。そうした状況の中で、一人一人の健康と信仰が守られ一年間歩んで来ることができましたことを感謝しています。感染症対策を優先する体制の中で教会が維持されてきましたことは本当に感謝なことです。一切が主の恵みであることは言うまでもないことですが、皆さまの尊いお祈りと献げもの、陰に陽に主のためにお仕えくださった愛兄弟のご奉仕のゆえです。愛兄弟方の去年のすべての営みに主の豊かなお報いをお祈り申し上げます。

さて、今年も感染症の影響は続きますので、先行き不透明ではありますが、下を向いてばかりはいられません。教会としても難しい舵取りが予測されますが希望を持って前進したく祈っています。この朝は年の初めに主から頂いた励ましのみことばをお分かちしたく願っています。

1. これは私が背負うべき問題

私たちは一人一人違う問題を抱えて生きています。似たような問題を抱えている人はたくさんいるでしょうが、細かなところまで比べるなら誰一人として全く同じ問題を抱えるということはないでしょう。その問題は固有の問題であって、その人が負わなければならないものです。援助者や助け手はいても、誰かが代わりに背負ってくれるものではありません。私たちは今年もそれぞれの問題を背負い走り続けなければならないのです。

1 節に「私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。」とあり、「自分の前に置かれている競争」という言い方で、課題の固有性を表しています。問題を抱えて戦っている人を励ますために、「あなたよりもっと大変な人がいるのだから、あなたも頑張らなければいけない」という言い方をすることがあります。しかしこれは励ましにはなりません。問題を抱えて戦っている人は、人と比べられることに抵抗があるでしょう。逆の立場になって考えてみれば良く分かります。自分がそのように言われて励まされるとは思わないでしょう。かえって「ああ、この人は私のこと、分かってくれないんだ」と心を閉ざしてしまうでしょう。今年も私たちはそれぞれの課題を抱えて一年を出発しました。でも大丈夫です。この一年を走り抜くための真の励ましがみことばの中にありますから。

2. 信仰の証人たちの励まし

最初の励ましは、「このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いている」(1 節)という事実です。今朝はヘブル 12 章を開いていますが、前の 11 章をご覧ください。そこには、旧約時代の聖徒たちの信仰の戦いが列挙されています。詳細に触れることはできませんが、名前だけ上げますと、アベル、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセと続き、イスラエル民族がエジプトを脱出してカナンへの地に入って行く途上の出

来事が手短かに記されています。「これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。」(ヘブル 11:32) と、旧約の聖徒たちの信仰の足跡が証されています。

この聖徒たちが雲のように私たちを取り巻いて、私たちを支え励ましてくださっているのです。そのことを知って励ましを得ていただきたいのです。先ほど問題の固有性についてお話しました。21世紀の私たちの課題を旧約の聖徒たちが経験したということではありません。課題の質も量も昔と今では全く違います。しかし旧約の聖徒たちはその時代において、神さまに信頼して戦って来たのです。戦う相手は昔と今で違っても戦い方は昔も今も同じなのです。その意味で問題に立ち向かって来た器たちの援軍は今の私たちにも大きな力となるのです。一例を上げるなら、Ⅱ列王記 6:17 にありますように、エリシャと伴の若者を敵が取り囲んだとき、神さまが若者の目を開かれると、彼は火の馬と戦車がエリシャを取り巻いて山に満ちている光景を見ます。その光景は若者を勇気づけ、勝利を確信させるに十分なものとなりました。旧約の聖徒たちだけではありません。教会の兄弟姉妹を始め、私たちの周りにはたくさんの信仰の器がいて、私たちを励まし支えてくださっていることを忘れてはいけません。その中にはすでに天に帰った聖徒たちもいます。私たちは決して一人ではないのです。

3. 重荷と罪を捨てて軽やかに

次の励ましは、「一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、…競争を忍耐をもって走り続けよう」(1節)という部分にあります。ヘブル書の記者は信仰生活を競技にたとえて、忍耐をもって信仰の道を走り続けようではありませんかと勧めています。競技という時、誤解しないでいただきたいです。“あの人よりも立派なクリスチャンになるのだ”と言って頑張ることを推奨しているわけではありません。私たちは勝敗をつけるために信仰という道を走っているのではなく、信仰の道を走り通し天国というゴールに達した者に与えられる

神さまからの栄冠を目指して今日も走っているのです。

信仰の道を走るときの妨げが、「いっさいの重荷とまとわりつく罪」です。これを背負って走ろうとすると、「あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしま」(3節)うこととなります。信仰生活が疲れたというのは、重荷を背負って走っているからです。走るためには軽装が一番。「いっさいの重荷とまとわりつく罪」はイエスさまが背負ってくださり、すでに取り除いてくださったことを思い起こしましょう。信仰生活の重さを感じたら、救いの原点に立ち返って、十字架の下で私たちの重荷と罪を背負ってくださった主を見上げましょう。クリスチャンにとって元気を回復するための秘訣は、十字架の主を見上げることです。十字架のイエスさまは元気を失わせる重荷と罪そのものを背負い処罰してくださったのですから、ここを見ないで本当の回復はないのです。

4. 最後まで一緒に走ってくださるイエスさま

最後の励ましは、イエスさまはゴールテープを切るまで私たちと共に走ってくださるということです。「信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」(2節)とありますように、私たちは人生の伴走者であるイエスさまから目を離してはいけません。競技は個人種目でも団体種目でもチームで戦っています。チームには監督やコーチやサポーターなどたくさんの人たちがいます。先ほどの取り巻く聖徒たちもその中の一人ですが、その先頭に立ってくださる方がイエスさまなのです。イエスさまは私たちがどのように歩んだら良いのか教えてください。それは聖書を通して教えてくださいるので、「聖書に触れてください」と勧めるわけです。

昨今、障がい者スポーツの関心が高まっています。中でも視覚障がい者のスポーツとしてブラインドサッカー、ブラインドテニス、ブラインドゴルフ、ブラインドマラソンなどたくさんの競技があります。こうした視覚にハンディのある方を支えるのが晴眼者で、晴眼者は視覚障がい者の目となってアド

バイスを送ります。私たちは自分の人生をどのように歩んだら良いのかわかっているようで実はわかっていません。私たちの人生のマラソンは、ゴールに背を向けて走っているようなもので、先のことは何一つ分からず走っているのです。未知の世界を走っている者にとって、先を見通しておられるイエスさまの伴走は何よりの助けです。

イエスさまの伴走はどんな試練や困難にも負けず、私たちをゴールへと導いてくださる強力なものです。その力強さと頼もしさは、ご自身が父なる神さまへの信仰によって十字架の道を走り抜かれたところから発せられています。十字架の道を走り抜くことがどれだけ困難なことなのかは、「ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。」(2,3 節)ということばかりわかります。イエスさまは私たちが信仰の道を走る時の様々な戦いをすべて知っておられます。人間の罪を身代わりに背負う重さ、同胞であるユダヤ人からの迫害、福音に対する拒絶、弟子の裏切りなどこれ以上ない苦悩をすべて経験されました。ですから、私たちの苦悩も知っておられるのです。「イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです」(ヘブル 2:18)。イエスさまの伴走を頼りに人生のマラソンを走り続けましょう。

まとめ

私たちが信仰の戦いのゆえに心が疲れ元気を失ってしまったなら、信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げましょう。そこには喜んで十字架を担い、「神の御座の右に着座」されたイエスさまがおられます。信仰の道は一人で歯を食いしばって走るものではなく、信仰の友と一緒に助け合いながら走るものです。コロナで人と人との接触が制限される中で、ともに助け合う、励まし合うということがいかに大切なことなのかを改めて教えられています。イエスさまは私たちの先頭に立ち、後ろに立ち、いつも励まし支えて

くださる方です。この方に信仰の目を向け、私たちの目をイエスさまから離さないで一年間歩んで行きましょう。2021年の祝福をお祈りいたします。